

第3号 稲作管理特報

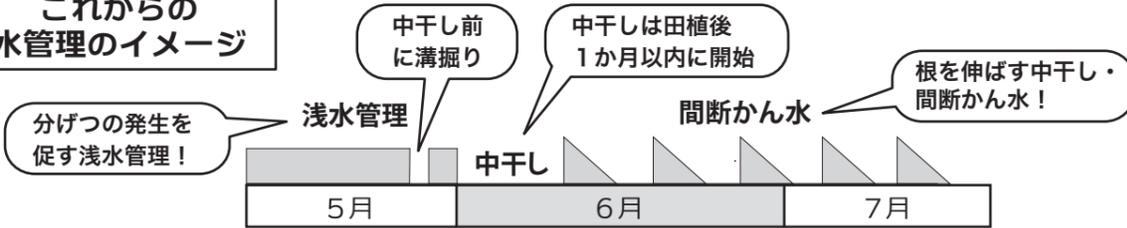
令和2年5月22日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

米の品質を高めるためには、稲の生育に合わせた水管理が重要です。

まずは、初期茎数を確保するために浅水管理を確実にを行い、分けつの発生を促しましょう。

次に、田植え後1か月以内に中干しを開始し、夏の高温に耐えうるしっかりとした「根づくり」に取り組みましょう。

これからの水管理のイメージ

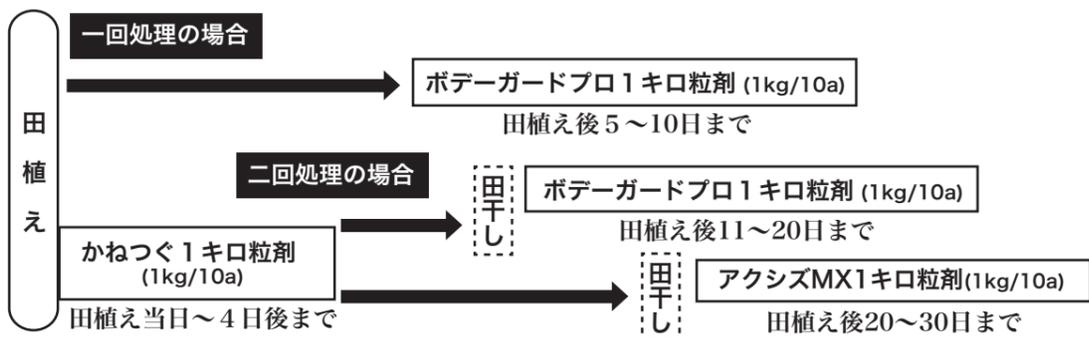


1. 浅水管理 ～初期茎数を確保する～

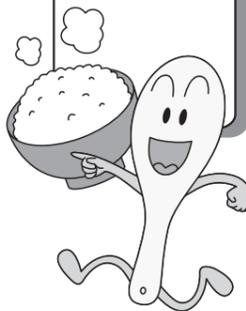
- ・中干しまでは、浅水管理で水温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ・アオモの発生やブクブクとわいているほ場、葉色の淡いほ場は、軽い田干しを行いましょう。

2. 除草剤散布

- ・散布前に5cm程度入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つようにしてください。
- ・水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し、田面の露出を避けてください。
- ・散布後7日間は落水やかけ流しは行わないでください。
- ・2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行うことで、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



『溝掘り・中干し』は適期を逃さずに行い、しっかりと根を伸ばそう！

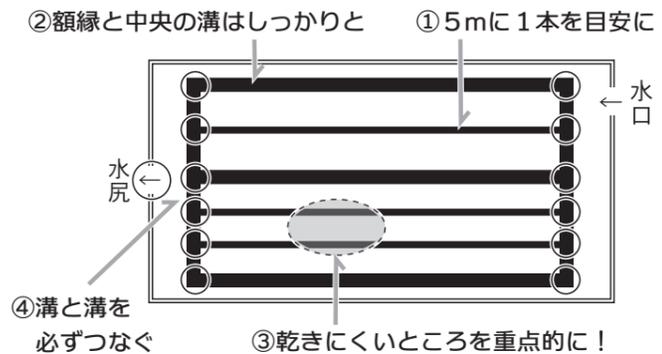


3. 溝掘り ～中干しの効果を高める～

- ・溝掘りは、中干し前に必ず実施しましょう。

溝掘りのポイント

- ・軽く田干しを行い、泥を落ち着かせて溝を掘る。
- ・溝の間隔は、5mに1本を目安に行う。
- ・ほ場の周囲と中央の1本は、特にしっかりと掘る。
- ・溝は、水尻まで確実に連結する。



<土が硬いと溝がしっかり残る>

溝掘りの効果

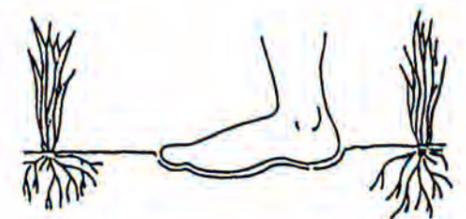
- ① ほ場のすみずみまで均一に干すことができる。
- ② 間断かん水の際など、水の出し入れがスムーズに行える。

4. 中干し ～根の量をしっかりと増やす～

- ・中干しは、田植え後1か月まで（70株植えの場合：株当たり16本程度）を開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干しあげましょう。
- ・中干しが遅れると根張りが悪くなり青米や乳白粒が発生する原因となります。

中干しのポイント

- ・田面に小さなひび割れが入り、長靴の跡がつく程度まで干す。
- ・表面に水がなくても足が沈むようでは不十分です。



【中干し終了頃のほ場の状態】

- ※茎数が多くなりやすい田や乾きにくい田は、やや強めに干しましょう。（ただし、長くても連続1週間以内とし、週に1度は入水する。）
- ※茎数が少なめの田や乾きやすい田は、1度に干しあげないようにしましょう。（1日湛水、2～3日落水の「間断かん水」により、地固めする。）